

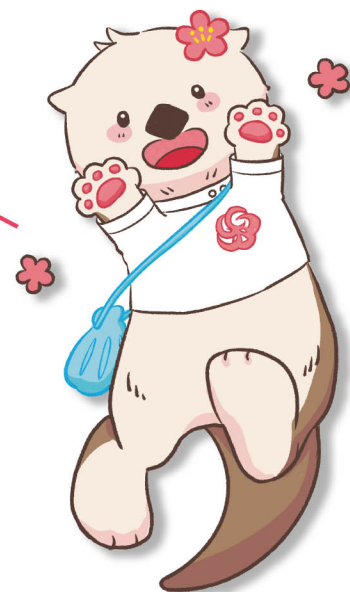
tete

特集 「成長」



つなでちゃん Information!

イベントのお知らせや、同窓会・大学のニュースなどをお届けしているよ!



同窓会からのお知らせを届けるために、登録情報の更新をお願いします!

同窓会誌の送付やメールマガジンの配信等を通して、同窓会および大学の最新情報やイベントのお知らせをお届けしております。卒業後も有益な情報を提供いたしますので、ぜひ会員情報の登録・更新をお願いします。
※提供いただいた情報は、個人情報取扱基準に基づき適正に取り扱います。事業推進の目的以外での利用や、第三者に提供することはありません。



NEW! 『同窓会員専用システム』を導入しました

システムにログインすることで、連絡先等登録情報の変更や同窓会誌・同窓会メルマガ受取希望の設定、同窓会メルマガのバックナンバーが閲覧可能です。初めてログインされる方は、システム内トップページの【パスワードの新規登録もしくは忘れた場合】からパスワードを設定してください。



表紙のヒト

「強化バスケ部同窓生のお三方」

今年の「表紙のヒト」は特集に参加いただいた強化バスケ部同窓生のお三方です。大学卒業後、社会に羽ばたき、積み重ねた多くの経験を糧にさらなる高みを目指す姿は、多くの同窓生にとって励みになるのではないかと思います。今年の同窓会誌 tete のテーマは「成長」です。一言で成長といっても精神的な成熟、能力やスキルの上達・改善や向上など、人の成長には様々な意味があります。親や指導者の立場として、誰かの成長を見守った方も多いのではないでしょうか。皆さんはこの1年間でどのような成長に出会えましたか? 私たち同窓会も、今年度は新しい取り組みを開始するなど、次のステップに向けて組織としての成長を意識した1年となりました。今後も同窓会の活動がより活気あるものとなり、皆様の成長を支援していけるよう頑張っていきたいと思っております。引き続き同窓会活動にご理解・ご協力いただければ幸いです。



お問い合わせ先 | 新潟医療福祉大学同窓会
新潟県新潟市北区島見町1398番地 新潟医療福祉大学事務局内 同窓会支援室
Tel 025-257-4455 Mail dosokai@nuhw.ac.jp



©NIIGATA ALBIREX BB RABBITS

澤田 やはり皆さん「バス」が人生の軸にある感じだねーそれぞれの大学生活や強化バスケット部の思い出があるかと思いますが、印象に残っていることはある？

大学生活や強化バスケット部での思い出

会人バスケットボールの大会に出場したりと過度に身体は動かしていました。
高橋航平(以下、高橋) 現在は母校でもある新潟市立鳥屋野中学校で、保健体育教諭として勤めています。大学卒業後は本採用を目指しながら約4年間、講師として魚沼市の高校や新潟市内の中学校に勤務しました。その後、ようやく本採用に受かりました。異動もあり、現在が本採用後3校目の勤務です。また、学校勤務後は新潟市内で活動しているU15女子バスケットボールクラブ「SBCC」のヘッドコーチとして、教員とクラブチームヘッドコーチという二つの顔を持っています。

Special Talk

あの日のチームメイト、 今もそれぞれのコートで

— バスケットボールと共に重ねた成長 —

時を経て、それぞれの道を歩んできた仲間たちが、久しぶりに母校・新潟医療福祉大学のキャンパスに集った。学生時代、強化男女バスケットボール部で共に汗を流した同窓生による再会である。大学時代の思い出を振り返りながら、人生のターニングポイントや成長のきっかけ、現在の喜びや悩み、そして学生・同窓生へのメッセージまで語り合った。

同じ時間を共有してきた仲間だからこそ生まれる、あたたかく濃密な対談となった。

進行は同窓会副会長・澤田隆志氏(強化男子バスケットボール部1期生)。

笑顔の絶えない、同窓生による特別対談をお届けする。

とを思い出せなくなってきたいて…笑
全員 爆笑
佐藤 ザツクリとですが、大好きなバスケットに集中できる環境があり、3年次にはインカレにも出場できて、本当に自由に学生生活を送れたなと感じています。
木暮 私は本当に先輩後輩に恵まれたなと今でも感じていて、2学年上に小林真里奈さん(現在は新潟医療福祉大学健康スポーツ学科 教員・強化女子バスケットボール部監督)もいたので心強かったです。一時期、バスケットへのモチベーションが下がっていた時があつて…練習で、とある先輩に胸ぐら掴まれて「ちゃんやれっ」って怒られました。今思い返しても、その時は私自身が子ども過ぎて、気持ちの面でも浮ついてたなと。本気で吐き出される先輩がいてくれて、あらためて気持ちを直してバスケットに向き合うことができました。学生生活は自身が本当に人見知りで…同じ高校から来ていた友達の後ろにずっと隠れて、その子に私の自己紹介をしてもらっていました。
高橋 大学生なのに友達に自己紹介させていたのはヤバイね笑
佐藤 よくラビッツでやっていたね笑
木暮 ヤバイですよね笑
高橋 自分たちの代は、ミナス時代から新潟県内でライバルとして戦ってきたメンバーが新潟

医療福祉大学に集まったので入学前からワクワクした気持ちでした。横の繋がりが非常に強かったです。教員採用試験の勉強の際には、今まで関わらずにいた学科同期とも繋がりを保持して、教員になった今でも交流が続いています。
澤田 航平(高橋)と優樹(佐藤)にズバリ聞きたいんだけど、4年次の北信越地区のインカレ予選でまさかの敗退。私も応援に行つて、敗退を目の前で見て…驚きしかなかったのだけど、それぞれの思いはどうでしたか？
高橋 前年度にインカレへ出場しているだけに自分たちの代でも「必ず！」という思いが強かったのですが、予選敗退となり…立ち直るまでに相当な時間がかかりました。インカレ予選後にはオールジャパン(天皇杯)の県予選も控えていたのですが、モチベーションが落ちて4年生全員が自暴自棄というか。全員で辞めるかという話が出るほどに暗い雰囲気でした。気持ちを立て直す時間も必要だったので練習を完全休みにして、とある日に豊栄駅周辺の焼肉屋だったかな？4年生全員で飲み明かした時がありましたね笑
佐藤 え？飲んだんだっけ？俺全然覚えてない笑
全員 爆笑
高橋 何とか気持ちを立て直してオールジャパン予選に臨み、準決勝では逆転勝ちしました！



高橋 航平さん

木暮 彩華さん

佐藤 優樹さん



卒業後、どんな道へ

澤田隆志(以下、澤田) 3人とも久しぶりだね！元気で良かったです！私自身は皆さんの活躍や状況はある程度把握しているのだけど、あらためて、近況や大学卒業後はどのような人生を歩んできたか聞かせてもらえませんか？

佐藤優樹(以下、佐藤) 現在、プロバスケットボールチーム「新潟アルビレックスBB」のアシスタントコーチをしています。大学卒業後は専門学校に進学し、その後プロバスケットボール選手となりました。新潟、広島、東京とおよそ10年間プロ選手としてプレーして、選手を引退。引退後は専門学校のバスケットボール部でヘッドコーチをしたり、スクールコーチをしたりとバスケットボールにはずっと関わっています。

木暮彩華(以下、木暮) 私は今、2児の母親として子育て真っ最中で忙しい毎日を送っています。大学卒業後は「新潟アルビレックスBB」ラビッツ(以下、ラビッツ)の選手として5年間プレーしました。引退後は結婚・出産を経験し、小学校教諭や高等学校教諭として勤めながら子育てをしていました。時々社



©NIIGATA ALBIREX BB



残念ながら決勝で敗れてしまったのですが、4年生全員が出場して戦うことができて、ようやく気持ちが晴れたというか、やってきて良かったなという思いになりました。
佐藤 インカレ予選で敗退した時は会場のトイレットで泣いていましたね。特に航平(高橋)や自分は試合に出させてもらっている立場だったので、出れないメンバーへの責任も感じました。大会前から戦いに臨む準備も気持ちづくりも足りなかった部分が多かったから勝つことができなかったなと思います。気持ちの切り替えは早い方なんですけど、この敗戦からの立ち直りには…相当な時間かかりました。ただ、この試合が「勝つこと」の難しさを教えてくれたと今でも感じています。この経験は今でも自分の中に生きていて、あらゆる準備を怠らないようにしています。
澤田 女子は北信越女王としてずっと勝ち続けてきたけど、プレッシャーはなかった？
木暮 4年間インカレに出場することができてますは良かったと感じます。北信越地区のインカレ予選は、特に何もプレッシャーを感じませんでしたね。高校時代(福井県立足羽高卒)もずっと北信越で戦ってきたので、雰囲気は慣れていたからだと思います。ただ、インカレでは4年間初戦敗退。毎年、関東の超強豪大学との戦いだつたので、大きくなって、フィジカルも強くて…どうすれば勝てるのか…インカレでの敗退は悔ししかったです。



人生を変えた「成長」への ターニングポイント

澤田 それぞれ、思い出深い学生生活を送った
ようだね！

今回の同窓会誌は「成長」というテーマを掲
げています。この対談もそれぞれの成長について
聞かせてほしいんだけど、これまでの人生で自身を
成長させたエピソードがあれば教えてください。

木暮 私は高校生活が一番自分を成長させて
くれました。地元を離れて、ひとり県外の高
校で生活を送りました。寮に入り、朝食の準
備や洗濯を自分自身でこなして、勉強もバス
ケットも本当に全力で取り組んだ3年間でした。
人生を振り返ってもバスケの練習も番きつ
て、やつて良かったと思えますが、絶対に当時
には戻りたくないです笑

大学入学後は、練習時間も短く、楽に感じ
ていました。ただ、それに甘えてしまったとい
うか。高校時代のように自分を追い込むこと
ができなくて、そういった部分がインカレで勝つ

ことができなかつた要因でもあると感じていま
す。大学生だからこそ「自分で考えて取り組
む」ことが必要だったと思えます。

澤田 「ラビッツ」で5シーズンプレーしてきた
大変だったことは？
木暮 当時、ラビッツの選手は私も含めて全員
が日中は仕事をしながら活動していました。
仕事後の限られた時間の中で練習に取り
組む二つひの時間を大切にしながら試合に
向けた準備を進めてきました。練習や試合、
イベントへの参加など多くの経験を重ねる中で、
仕事との両立やマネジメント管理には難しさも
ありましたが、スタッフの皆さん、チームメイト、
そして家族（親）の支えがあったからこそ、最後
まで前向きに取り組むことができました。

日本女子バスケットリーグでの5年間
で得た学びや経験は、自分にとって大きな財
産です。支えてくださったすべての方々に心か
ら感謝しています。

佐藤 自分は小学校時代はミバス、中学校で
はバスケットを離れて野球を選びました。そして、
高校で再度バスケットに戻ったのですが、高校で
バスケットを選んだことが今の人生に繋がっている
ので、そこがターニングポイントです。野球をして
いたら今どうなっていたかなと考えることも
ありますが、野球からバスケットを選んだことが何
事にも挑戦する人間性を養ってくれたと思
います。「トライ＆エラー」という言葉がある
とおり、トライしなければエラーは生まれな
いし、エラーしなければ修正もできず成長にも
繋がりません。選手時代もコーチの立場にな
った今でも、挑戦するという気持ちを忘れずに
一日を過ごしています！

高橋・澤田 優勝は大人になったな笑
佐藤 ありがとうございます笑
澤田 プロとして10年間プレーしてきた大変
だったことはある？



人なんだと感じます。

木暮 大学生の頃、トレーナーさんが私にくれ
た「人皆我師（ひとみなわがし）」という言葉
があります。「人は皆、自分の師匠である」と
いう意味です。社会に出れば苦手な人も出
会うことは必ずあります。「苦手な人だ
なあ。」で終わるのではなく、その人が私に何
かを教えてくれると思えば、関わり方や見方
が変わります。どんな人との縁も自分の学
ぶきっかけになると感じるので、在学生の皆さ
んにもそのような視点を持つてほしいです。

佐藤 学生時代は本当に時間があるので色々
なことに挑戦してほしいですし、目標に向けた
タイムマネジメントを意識してほしいです。簡単
なようで「一番難しいことだ」と思います。

目標に向けていかに取捨選択して取り組むか
タイムマネジメントが学生時代からできれば社会
人になつてからも絶対に活かれます。1日1週
間、1ヶ月間、1年間、4年間、自分自身のタイム
マネジメントを意識してほしいと思っています。
澤田 4年間はあつたという間のようで、一番自
由な時間があるときでもあるよね。在学生へ
の温かいお言葉。ありがとうございます。それ

佐藤 正直、大変と感じたことはなかった
です。プロである以上、注目されたいですし、注
目されるには結果を出すしかない世界。結果
を出すには努力するしかなかったので、自分を
成長させてくれることすべてを欲していました
し、その状況を楽しんでいました！指導する
立場になつてからのほうが大変さや苦勞を感
じています。コーチとして「人を成長させる」に
は本当にもすごいエネルギーを使います。一人
ひとりへの言葉かけや、表情、ジェスチャーも変
えないと伝わらないので、コーチの立場になつ
てからが一番大変ですし、日々考えることばか
りです。

澤田 「コーチング」という部分は航平が今ま
さにおこなっていることだけど、航平は自身の
成長をどう考えている？
高橋 自分は今までの積み重ねが成長する
きっかけに繋がったと思っています。年齢や人
生を重ねて、自分の考えを整理できるように
なつてから「こうなりたい」というビジョンが
明確化してきました。そうなるのと物事の見方
が変わつてきて「勉強しなきゃ。」が「勉強した
い！」になったり、「あの人が学びたい！」とい
う欲が自然と湧き出てきたりと、そういった
時に成長を感じています。教員もコーチも「人
に影響を与える」「人の成長のきっかけをつ
くることが役割だ」と思っているので、そのために
は授業の組み立て方やアプローチの方法、バス
ケットの練習や声かけもすべて自分自身が勉強し
たいと感じていることが成長している証でもあ
ると思います。

澤田 中学校教諭とU15女子クラブチーム
のドコチという二つの場所で活動をしてい
けど、切り替えはできているの？
高橋 切り替えはできていますね！クラブチ
ムには色々な中学校の生徒が練習に来るので、
毎回フレッシュな気持ちで指導できています。

では、同窓生へメッセージをお願いします！！
全員 一番難しいですね笑
木暮 私は今、子育て真っ最中で、同じように
子育てをされている同窓生の皆さんも多いと
思います。大変なことはあると思いますが、喜
びや幸せもたくさん感じられると思いますの
で、お互い子育てを頑張つて、子どもたちの成
長を楽しんでいきましょう！！

佐藤 自分は今、新潟アルビレックスBBに
いるのでぜひ、ご家族で試合を見に来てくださ
い！！見に来てくれる佐藤優樹のエネルギーを同
窓生の皆さんに与えられる自信があります！
「あいつ、声張り上げながら頑張つてたな」と元
氣を与えることができますので、ぜひ試合会場
に足を運んでいただければと思います！！

高橋 自分は教員としての姿をお見せするこ
とはなかなかできませんが、運営するU15女
子バスケットボールクラブ「SBCC」の試合を
ぜひ見に来てほしいと思います！SBCCは
選手とその保護者の体感が本当に素晴らしい
チームです！その一体感とエナジーを皆さんに
与えられたらと思います！！



今までの「部活動」というくりだと、学校
生活で何かトラブルがあった際、部活動の時間
もお互いにギクシャクした空気がずっと続いて
しまうこともありました。ですので、クラブ
チームの指導や運営はフレッシュな気持ちで臨
めています。自分は元々、バスケの指導がたく
くて教員を目指したということもあり、クラブ
チームでの指導や運営が、教員としての授業
組み立てや生徒指導の声かけ、学校運営にも
応用できています。

現在の楽しみ、喜び、悩み

澤田 皆さん本当によい人生経験を積んで
いるね！

今現在の楽しみや喜び、また悩みなどがあ
れば聞かせてくれるかな？

佐藤 今の楽しみは家族と過ごす時間です
ね！休日に妻と過ごしたり、飼っている犬と公
園を散歩している時に安らぎと幸せを感じま
す。プロチームに在籍しているので、プライベート



新潟アルビレックスBB
公式ホームページ
佐藤 優樹さん
健康スポーツ学科
2010年卒



新潟県出身。強化男子バスケットボール部2期生。現在はプロ
バスケットボールチーム「新潟アルビレックスBB」のトップチーム
にてアシスタントコーチとして活躍中。大学卒業後は専門学校を
経て、プロバスケットボール選手として新潟、広島、東京と約10
年間のプロ選手キャリアを歩み、2019-2020シーズンを最後に
現役引退。引退後も指導者として専門学校のバスケットボール
部を全国大会出場へ導くなど、プロチームのコーチになった今も
新潟のバスケットボール界を熱く盛り上げ続けている。



木暮 彩華さん
健康スポーツ学科
2014年卒



群馬県出身。強化女子バスケットボール部6期生。現在は母と
して2児の子育てに日々奮闘中。大学卒業後はWJBL(女子バス
ケットボール日本リーグ)の「新潟アルビレックスBBラビッツ」の選
手として、スピードのあるドリブルと正確無比な3ポイントシュート
を武器に5シーズンに渡り活躍。2018-2019シーズンを最後に現
役引退。引退後は小学校教諭、高等学校教諭として教鞭を取り、
部活動で男子バスケットボール部の顧問をするなど生徒たち
の指導に携わってきた。



高橋 航平さん
健康スポーツ学科
2010年卒



新潟県出身。強化男子バスケットボール部2期生。現在は新潟
市立鳥屋野中学校教諭(保健体育)として勤務中。新潟市
内で活動するU15女子バスケットボールクラブ「SBCC」のヘ
ッドコーチとしても活躍中。大学卒業後は県内中学校、高等学校
にて教鞭を取りつつ、自身も社会人バスケットボールチームにて
選手活動を継続。選手引退後は教員・コーチとしても、生徒・選
手の指導育成に深く関わり、ヘッドコーチとして運営するクラブ
チームは県内や全国でも名を轟かせる強豪チームになっている。



- 1/基礎医学の学びを深める日々。学業にも競技にも全力で向き合う姿勢が印象的。
- 2/SAGA2024国民スポーツ大会 成年男子50m自由形にて、22秒32で初優勝を果たした。
- 3/「過去の自分を超えていきたい」——そう語る松井さんの表情はとても明るい。

「自身の「成長」のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

水泳歴は約30年、選手としても20年以上取り組んできました。その中ではケガや手術、記録の停滞など多くの壁に直面してきました。大学時代には二度の手術を経験し、競技でも悔しい思いをたくさんしてきました。

そうした困難に向き合うとき、「どう行動するか」が自分を成長させると考えています。落ち込んだときには一人で抱え込まず、仲間や先輩、指導者に相談してきました。周りからのアドバイスは自分の視野を広げてくれ、前に進むきっかけになります。

また、「常に「過去の自分を超える」という意識を持ち、大会で自分を超える瞬間があるからこそ努力



「過去の自分を超える」という意識を持ち、大会で自分を超える瞬間があるからこそ努力

「自身の「成長」のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

「自身の「成長」のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

に残っています。さらに東京五輪の代表落選が決まった際には、競技人生で最も落ち込んだ瞬間でした。しかし、その度に仲間や恩師が声をかけてくれ、気持ちを立て直すことができました。

現在は自己ベストを更新できない時期が続いていますが、「どうすれば更新できるか」を考えながら練習に取り組み過程にやりがいを感じています。記録に挑み続ける姿勢そのものが、自分のモチベーションの源になっています。

「自身の「成長」のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

今後の夢や目標、キャリアデザインなどを教えてください。

将来はスポーツドクターとして、アスリートのケガや病気を支えられる存在になりたいと考えています。大学時代に自身が二度の手術を経験したこと、そして周囲の選手がケガに苦しむ姿を見てきたことが、この道を目指すきっかけになりました。「自分の経験を医療に還元したい」という思いが強くなります。

「自身の「成長」のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

「自身の「成長」のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

同窓生へ向けてメッセージをください。

大学生活では、学科や部活動を通して多くの人と出会い、大きく成長することができました。社会に出てからも、出会いは自分の人生に大きな影響を与えてくれるものだと感じています。

「自身の「成長」のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

Information

日本医科大学

日本医科大学は、1876年に創立された済生学舎を前身とし、日本最古の私立医科大学。以来「済生救民」「克己殉公」の精神を掲げ、教育・研究・医療を通じて「人々の命と社会を支える医療人」を育成し、これまでに1万人以上の医師・医学研究者・医療従事者を輩出しています。大学は東京都文京区千駄木を中心に、最先端の設備と臨床・研究環境を備えたキャンパスを構え、付属病院群を通じて救急医療やがん治療、リハビリなど幅広い医療提供体制を整備。2026年4月には看護師養成を担う新学部「医療健康科学部」を開設。医療・健康・保健分野における教育と研究を通じて、社会の多様な健康ニーズに応える人材を育成します。

住所 / 〒113-8602 東京都文京区千駄木1-1-5 ホームページ / <https://www.nms.ac.jp/college.html>



同窓生は今

経験を糧にして歩む、成長の現在地

日本医科大学 医学部
済生学舎 1号館
SINCE 1876



理学療法学科 2016年卒

松井 浩亮 さん

埼玉県出身。現在は、日本医科大学で医師を目指して学びながら、水泳選手としての活動も続けている。水泳競技には約30年取り組み、2019年には自己ベストを記録。前年のアジア大会の代表を0.02秒差で逃した悔しさや、東京五輪代表落選など、競技人生には多くの壁があった。大学時代には二度の手術を経験し、ケガや病気に苦しむ仲間を見てきたことから、スポーツドクターを志すようになる。現在は膨大な医学の学びと限られた練習時間の中で、「過去の自分を超える」という姿勢を大切にしながら、学業と競技の両立に挑んでいる。困難に向き合いながら成長を積み重ねてきた姿は、多くの同窓生に勇気を与えている。

現在の状況と現在に至るまでの道のりを教えてください。

現在は、日本医科大学で医師を目指し、解剖学や生理学など基礎医学を学んでいます。分野ごとに新しい知識に触れることに大きなやりがいを感じています。また、これまで取り組んできた水泳競技も継続しており、学業とトレーニングを両立しながら日々過ごしています。

医師を志す気持ちは以前からありましたが、まずは競技に集中しようという決意、東京オリンピックまでは新潟医療福祉大学の職員として勤務しながら水泳を続けていました。しかし

やりがいを感じることや、それに関わるエピソードを教えてください。

医学の道は覚えるべき量も膨大で大変ですが、自分がこれまで競技で向き合ってきた身体の仕組みと重なる部分も多く、興味を持って学習できています。また、水泳も今は以前のように練習時間を十分確保できないものの、公共プールを利用したり合宿に参加したりと工夫しながら取り組んでいます。

水泳では、2019年に自己ベストを出し、さらに短水路で日本記録を更新。前年のアジア大会の代表を0.02秒差で逃し、テレビで決勝を観ながら悔しい思いをしたことが印象



1/各部署からの相談に迅速対応。現場の困りごとに寄り添い、最適なシステム提案をおこなう。2/各部署の活動状況や売上目標、進捗をスクリーンで確認し、データをもとに現場のサポートや業務改善につなげる市川さん。3/業務効率化やDX推進のため、システム設計やデータ分析に集中。裏方から会社を支える。

以前勤めていた会社では、プログラムを作るのが中心で利用者の反応を直接聞く機会が少なかったため今の職場で「人の役に立てている」と実感できることが大きな喜びです。社内SEの仕事は「人と話すことが多いエンジニアリング」です。1日中、電話や打ち合わせで終わる日もありますが、その分、相手の笑顔が見える瞬間が多いのが魅力です。

「ご自身の『成長』のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

『失敗は成功のもと』という言葉が大切にしています。仕事ではうまくいかないことが多いですが、落ち込むことも始まらない」と思っています。失敗を恐れずに挑戦し、原因を考え、周囲に意見を聞きながら改善する。その繰り返しですが、自分の成長につながると感じています。

高校時代から資格取得に挑戦してきましたが、思うように合格できなかったこともありました。それでも学び続けたことで、今の自分の強みである「粘り強さ」が育つたのだと思います。結果的に、その積み重ねこそが今のキャリアを支えています。

私は性格的に「ネガティブな方ですが、「諦めない気持ち」だけは誰にも負けないと自負しています。落ち込んでも、「諦めないで頑張ろうかな」という風に気持ちを切り替えるこ

とが自分の成長につながっていると感じます。

職業人として、今後の夢や目標、キャリアデザインなどを教えてください。」

将来的には、岩塚製菓全体が「デジタルとデータを自然に使いこなせる会社」へ進化していくための力になりたいと考えています。近年、製造業を取り巻く環境は大きく変化しており、業務の効率化や人手不足への対応など、デジタルの力が欠かせない場面が増えています。その中で、現場の皆さんが「ITは難しいもの」ではなく、「業務を楽にし、今よりもっと良くなるもの」と感じられるよう、寄り添いながらサポートしていくのが私の目標です。

そのためには、単に新しいシステムを導入するだけでなく、「なぜ必要なのか」「どんな良い変化が生まれるのか」「丁寧な伝え、現場の皆さんが納得して使いこなせるまで伴走する姿勢が大切だと考えています。DXは人が主役です。システムを使う方が興味を持ち、前向きに活用できる環境を整えていくことが、社内SEとしての使命だと思っています。

また、DXの推進は、単なる業務効率化にとどまらず、最終的には会社の「売上や認知度の向上」にもつながること、より正確な需要予測や効率的な物流が可能になり、余分な負荷を減らしながら、必要な商品を必要な場所へ届けることができるよう

になります。そうした取り組みの積み重ねが、岩塚製菓の商品をこれまで以上に多くの方へ届けることにつながれば、それが何よりの喜びであり、目標です。

同窓生へ向けてメッセージをください。」

変化の多い時代だからこそ、大切なのは前向きな気持ちと挑戦する情熱です。私自身、進路に迷った時期や、やりたいことが定まらなかった時期もありましたが、その気持ちや情熱があったからこそ、今の自分が在ると思います。皆さんも、迷いや困難を恐れず、一歩ずつ前に進んでほしいと思います。

大学で学んだチーム医療の経験は、専門分野は違えど、協力して成果を生み出す大切さを教えてくれました。今、私が製菓業界でDXの推進に取り組めるのも、その学びがあったからこそです。現場や仲間と一緒に考え、支え合いながら前に進むことで、一人では成し得ない成果を生むことができます。

そして、私たちの仕事は、形は違っても誰かの生活や心に寄り添うことにもつながっています。お菓子は人々の生活に安らぎや豊かさを届ける存在です。DXの力を活かして業務を改善し、安定した供給体制を整えることは、間接的ですが、多くの人の喜びに貢献できることでもあります。自分たちの取り組みが、誰かの生活や笑顔につながると思うと、日々の仕事の意義もより深く感じられます。

同窓生の皆さんも、それぞれの場



4/現場の声に耳を傾けることで、より実用的なシステム改善につなげられることがやりがいと話す市川さん。

Information

岩塚製菓株式会社

岩塚製菓株式会社は、新潟県長岡市発祥の米菓メーカーで、国産米100%の原料にこだわり、「米・技・心」の理念を大切に製品作りをおこなっている。創業75年以上の歴史を持ち、安定した製品供給と国内外への笑顔の提供に取り組んでいる企業である。

住所/〒949-5492 新潟県長岡市飯塚2958番地
ホームページ/ <https://www.iwatsukaseika.co.jp/>



“現場の声”を形に、ITと現場をつなぐ挑戦と成長の日々



現在、岩塚製菓株式会社でシステムエンジニア(以下、社内SE)として勤務しています。社内の情報システム部に所属し、製造・物流・品質管理など各部署がより効率的に業務を進められるよう、システムの提案や改善、保守対応などをこなしています。

高校は商業科へ進学したため、当時から情報や会計の勉強に親しみがありません。大学では医療・情報・経営を幅広く学べる医療情報管理学科に進みましたが、次第に「情報分野こそ自分の強みを活かせる」と感じ、2年次からITに軸足を置くようになりました。ITパスポートなどの資格取得を目指して勉強する中で、システムづくりを通して人を支える仕事に惹かれました。就職活動では「時営業職にも興味を持ちました。友人から「あなたはITで、その力を発揮できる」と言われ

た言葉が心に残り、再び原点に立ち返りました。その一言がなければ、今の自分はいなかったかもしれません。新卒でシステム開発会社に入社し、プログラマーとしてキャリアをスタート。設計図に沿ってプログラムを構築する仕事を経験し、技術力を磨くと同時に、「使う人の声を直接聞きながら、より良い仕組みを提案する仕事がしたい」という思いが強くなりました。

そうした折、地元・長岡で社内SEを募集していた岩塚製菓と出会い、「地元を根ざしながら、人と関わるITの仕事をした」という希望が叶いました。今はまさに、縁でつながった職場で、充実した日々を送っています。

やりがいを感ずることや、それに関わるエピソードを教えてください。」

自社の各部署を「お客様」と捉え、システムを通して現場の声に聴えるのが私の仕事です。

たとえば、製造現場や物流部門から「この作業がやりにくい」「もっと効率化できないか」といった相談を受け、それをもとに新しい仕組みを提案・構築します。最近では、物流部門とともに2024年問題(トラックドライバーの労働時間制限)への対応として、配送拠点の見直しと在庫管理システムの改善を進めています。現場の皆さんと一緒に議論し、実際に「これで作業が楽になった」「助かりました」と直接感謝の言葉をいただいた時、何よりのやりがいを感ずります。

医療情報管理学科 2018年卒

市川 健人 さん

新潟県出身。現在は岩塚製菓株式会社でシステムエンジニアとして勤務。製造・物流・品質管理など各部署と密に連携し、現場の声に耳を傾けながら、システム提案・改善やデータ活用に取り組むことで、日々やりがいを感ずっている。DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進を通じて会社全体の業務改善やお菓子の安定供給に貢献しつつ、自身も日々成長を重ねている。

た言葉が心に残り、再び原点に立ち返りました。その一言がなければ、今の自分はいなかったかもしれません。新卒でシステム開発会社に入社し、プログラマーとしてキャリアをスタート。設計図に沿ってプログラムを構築する仕事を経験し、技術力を磨くと同時に、「使う人の声を直接聞きながら、より良い仕組みを提案する仕事がしたい」という思いが強くなりました。

そうした折、地元・長岡で社内SEを募集していた岩塚製菓と出会い、「地元を根ざしながら、人と関わるITの仕事をした」という希望が叶いました。今はまさに、縁でつながった職場で、充実した日々を送っています。



夢を叶え、命に向き合い成長する救急の現場から

きません。しかし、困っている方へ最初に手を差し伸べ、いかに確実に病院へつなぐことができるかが大切な役割になります。その責任の重さと、人の命を救える職務である誇りを日々実感しています。

「自身の『成長』のために意識していることや糧になっていることがあれば教えてください。」

私の所属する部隊では、多い日には1当務(朝8時30分から翌朝8時30分まで)の間に10件ほどの救急出動があります。1件ごとの活動をすべて覚

えておくのは難しいため、私は発生日時・性別・年齢・事案内容などを簡単にまとめ、エクセルに記録しています。データ化しておくことで、後で振り返るときに検索できるので、「前にも似た事案があったな」と思った時に確認することができ、とても役立っています。

また、日々の活動の中で「絶対にしなくてはならない」と強く意識していることがあります。それは「自分が怪我をして帰ること」です。そう考えるようになったのは、入庁1年目に経験した火災出動がきっかけでした。その現場で、一緒に活動していた先輩隊員が建物の崩落で負傷し、現場に戻

れなくなってしまうのです。隊員が1人欠けるだけで部隊全体の活動に大きな影響が出ますし、救助するはずの私たちが新たに救急車を必要としてしまう状況は、絶対に避けなければなりません。

教科書で学んだ知識ももちろん大切ですが、実際の現場で体験して初めて実感できることが多くあります。日々の出動を振り返りながら、これからも学び続け、成長していきたいと思っています。

職業人として、今後の夢や目標、キャリアデザインなどを教えてください。」

消防の組織は階級制度があり、私は現在「消防副士長」という下から2番目の階級にあたります。そのため、現場に出てもまだ指揮をとることはできません。しかし、今後階級が上がり、隊長として活動する立場になったときに慌てないよう、今のうちから先輩隊員の動き方を見て学んだり、経験談をよく聞いたりして、自分の力にしていきたいと考えています。

また、消防は人の命や財産を守る大切な仕事です。決められたルールをしっかり守り、安心して任せてもらえる職員になれるよう、これからも努力し続けていきたいと思っています。

救急救命学科 2022年卒
波間 真輝 さん
新潟県出身。現在は長岡市消防本部警防課救急管理室で救急救命士として勤務。消防学校での訓練を経て、出張所での消防・救急活動を経験しながら、日々命と向き合い成長を続けている。現場では重症患者の搬送や緊急性の高い患者への迅速な処置にあたり、責任の重さとやりがいを実感。将来の隊長としての活躍も見据え、先輩の動きを学びながら日々研鑽を積んでいる。

現在のお仕事と現在に至るまでの道のりを教えてください。」

現在は長岡消防署の救急係で、救急救命士として働いています。大学を卒業して消防署入庁後は、まず半年間消防学校に通い、そこで消防業務に必要な知識を学んだり、消防・救助・救急の訓練を受けたりしました。その後は越路出張所で消防隊員として1年間勤務し、さらにもう1年間は小国出張所で兼務隊として、消防だけでなく救急車にも乗って救急活動をおこないました。そうやって少しずつ経験を積みながら、今の仕事につながっています。

この職業を目指すようになったの

は、小学生の頃に祖母が救急車で運ばれたことがあったのですが、その時に「救急隊の人ってカッコいいな」と思ったことがきっかけでした。その気持ちは高校生になっても変わらず、救急救命士の資格を取得することができた新潟医療福祉大学を選ばれました。地元にも近いことから、長岡市消防本部の採用試験を受け、念願の救急救命士になることができました。

やりがいを感じることや、それに関わるエピソードを教えてください。」

消防の仕事には、消火・救助・救急・火災の予防など幅広い業務があります。その中でも私は現在、救急活動を中心に担当しており、日々救急車に乗って出動しています。

現場では、脳梗塞や心筋梗塞など入院が必要となる重症度の高い方や、気胸のようにすぐに処置をしなれば命に関わる緊急度の高い方に対応することもあります。そのような方を無事に病院へ搬送し、後日、返送される記録で「退院」「社会復帰」といった結果を知ると、「適切な処置ができて良かったな」と、この仕事に大きなやりがいを感じます。

私たち救急隊は、病院職員のように患者さんと長期間関わることはで



3

同窓生へ向けてメッセージをください。」

救急救命学科は2026年度、学科設立10周年を迎えようとしています。これを記念して、同窓会を開こうと企画中です。皆さんの参加を楽しみにしています。

また、救急救命士の免許更新には決まった研修を受ける必要がありますが、新潟医療福祉大学でも研修が開催されているので、卒業後も学びを続けやすくなっています。

卒業生の皆さん、ぜひこの機会に集まり、つながりを広げ、学科の10周年を一緒に祝いましょう！



4



1/ 救急現場に出動する際、実際に使用している救急車。2/ 患者さんの不安を和らげられるよう、優しい表情で声掛けする波間さん。3/ 一秒でも早く現場へ。迅速な出動ができるよう、必要装備が一括収納できる設計のロッカーが採用されている。4/ 困っている方に最初の救いの手を差し伸べ、いかに病院へつないであげられるかが大切と語る波間さん。

Information

長岡市消防本部

長岡市の救急の中枢として、越後長岡藩から受け継がれる「常在戦場」の精神で、24時間365日、市民の生命・身体・財産を守るため、消防・救急・救助・火災予防など幅広く活動。救急車の仕様作成・入札や出動統計などの事務も担い、救急管理室は市の救急行政全体を企画・実践。市民に身近に感じてもらうため、Instagramで活動や魅力も発信している。



住所/〒940-0082 長岡市千歳1-3-100
ホームページ/ <https://www.city.nagaoka.niigata.jp/kurashi/cate16/>

伍桃祭×同窓会イベント

今年度の大学祭は「体験型」をテーマに開催しました。イベントの目玉は、世界で活躍する陸上走高跳の長谷川直人選手(サトウ食品新潟アルビレックスRC所属/本学同窓生)による跳躍パフォーマンスです。長谷川選手の跳躍を目の前で見た多くの来場者からは、歓声と拍手が湧き上がり非常に盛り上がりました。当日は来場者による跳躍体験も実施し、多くの子どもたちにご参加いただきました。長谷川選手から跳び方のコツを教わりながら果敢に挑戦する子どもたちにも、温かい拍手が送られました。また、今年度は同窓会紹介クイズも企画し、来場者の皆様に同窓会のことや活動について知ってもらう機会になりました。他にも毎年恒例といえる同窓生による出店やあそびの広場、写真撮影コーナーも充実しており、タコスを楽しめる方や会場内を元気に走り回る子どもたちの姿が見受けられ、同窓生や地域の方々との繋がりが実感できました。多くの同窓生や同窓会役員の皆様にご協力いただきながら開催している大学祭イベントを今年度も盛大に実施できたことを大変嬉しく思っております。来年度以降は更にパワーアップしたイベントを実施したいと考えておりますので、ご期待ください。



幹事役員 金内 一品
(健康スポーツ学科 2016年卒)



連携総合ゼミ同窓生派遣事業

2025年8月26日(火)に本学4年生と新潟県内にある2大学が参加した連携総合ゼミへ同窓生派遣をおこないました。

当日は14名の同窓生から10テーマの事例について学生に直接アドバイスをしていただきました。

- 参加された講師
- 岡山 せい子 さん(理学療法学科 2009年卒)
 - 金子 巧 さん(理学療法学科 2009年卒)
 - 福島 唯 さん(理学療法学科 2009年卒)
 - 本田 早紀 さん(理学療法学科 2015年卒)
 - 南 千裕 さん(理学療法学科 2022年卒)
 - 西山 達也 さん(作業療法学科 2010年卒)
 - 永井 恵子 さん(義肢装具自立支援学分野 2016年修了)
 - 坂井 万里子 さん(臨床技術学科 2020年卒)
 - 加藤 寛子 さん(健康栄養学科 2005年卒)
 - 片野 佑美 さん(健康栄養学科 2017年卒)
 - 杉崎 兼治郎 さん(看護学科 2015年卒)
 - 鈴木 開哉 さん(看護学科 2016年卒)
 - 江里口 恵子 さん(社会福祉学科 2007年卒)
 - 永正 崇文 さん(社会福祉学科 2007年卒)



Voices /

同窓生として「連携総合ゼミ」に参加し、医療・福祉分野が抱える社会課題について、学生の皆さんと活発に議論する貴重な機会をいただきました。多職種・他大学の学生が集い、それぞれの専門性や視点から課題にアプローチするこのゼミは、まさに「現場力」を磨く実践の場です。私自身も医療現場で働く立場から、実際のケースを交えながら助言することで、学びを現実に結びつけることを意識しました。今後も、医福の学生が現場で「さすがだね」と評価されるように、同窓生として成長を後押ししていけたらと思います。

鈴木 開哉さん (看護学科 2016年卒)



連携総合ゼミ同窓生派遣事業とは
具体的な症例をもとに、学科混成グループで支援策を検討していく連携総合ゼミにおいて、同窓生が専門職としての視点からアドバイスを伝え、経験をもとにサポートする役割を担う在学生支援事業です。

第13回 連携研修会 交通外傷による脳出血診療の最前線

2025年11月22日(土)新潟医療福祉大学にて、第13回連携研修会を開催いたしました。

第一部では、4名の同窓生より職場における取り組みをご報告いただき、後半は診療放射線学科教員である吉田先生コーディネートのもと医療現場での多職種連携の実際についてパネルディスカッションをおこないました。

第二部では、最新鋭の医療用機器を備えた学内施設「メディカルイメージングセンター」にて、参加者の皆様よりレントゲン撮影等を体験していただき、大変盛り上がりました。

第一部 同窓生による活動報告および多職種連携についてパネルディスカッション



- パネラー
- 瀧澤 知世 さん(診療放射線学科 2022年卒)
 - 田畑 智 さん(作業療法学科 2005年卒)
 - 松井 智世 さん(言語聴覚学科 2014年卒)
 - 岡村 光樹 さん(救急救命学 2021年卒)

- コーディネーター
- 吉田 宜清 先生
(新潟医療福祉大学 診療放射線学科 講師)

第二部 T棟1階 メディカルイメージングセンター 体験会

ファントムを用いたレントゲン撮影体験、NIRS(ニルス)による脳血流測定体験 等



連携研修会とは

2013年より開催され、13回目の開催となります。新潟医療福祉大学での連携教育を踏襲し、専門職としての資質向上(スキルアップ)の実現を目的とした同窓会の中心を担う事業です。卒業後教育・生涯教育を充実させるとともに、専門職として活躍している同窓生どうしの新たな連携方法を模索し、相互の親睦を深める機会を提供しています。

Voices /



コーディネーター 吉田 宜清 先生より

今回は「交通外傷による脳出血診療の最前線」をテーマに、卒業後に各分野で活躍される同窓生の皆様にご発表いただきました。救急対応、画像診断、急性期リハビリ、嚥下・高次脳機能評価まで、現場から社会復帰までの流れを多職種で学ぶことができました。各職種の専門的な視点を共有し、連携の重要性を再認識する非常に有意義な研修会となりました。今後も連携研修会を通じて、同窓生がチーム医療を実践的に学ぶ機会を提供し、臨床現場の質の向上と多職種連携の強化を目指してまいります。ご参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

総評



会長 田村 祐美
(理学療法学科 2007年卒)

今回は「交通外傷による脳出血診療の最前線」をテーマに、診療放射線学科を主幹として連携研修会を開催しました。コーディネーターの吉田先生をはじめ、パネリストでご協力いただいた同窓生、関係者の皆様に感謝申し上げます。

第一部では、突然の事故で受傷した患者様が救急救命士によって迅速に医療機関へ運ばれた後、診療放射線技師による的確なSTAT画像による診療補助がおこなわれ、急性期から退院までの作業療法士そして言語聴覚士によるリハビリ、社会復帰へと繋がる連携について、専門職の立場から発表いただきました。多職種連携の重要性とその難しさについて、フロアからの質問も交えて活発な意見交換がおこなわれました。

第二部では学内の「メディカルイメージングセンター」体験会を開催していただき、最新の設備と充実した教育・研究環境が整っていることに驚きました。自分が在学中には設立されていなかった学科の話や、設備に触れる機会は大変貴重で得がたい経験となりました。

母校である新潟医療福祉大学は年々学科数が増えており、この連携研修会は普段関わることのない専門職の経験や体験を直接聞いて肌で感じる事ができる貴重な機会です。これからも卒業教育・生涯学習の場としてご活用いただきたいと思います。



在学生支援
合格祈願米
大願成就米
贈呈

国家試験・資格試験を受験する4年次生の皆さんへ、同窓会より合格祈願米・大願成就米を贈呈しました。お米には私たち人間の脳の栄養であるブドウ糖が含まれており、大切なエネルギー源です。試験等に挑む4年次生の「大切な時」を同窓会がそっと支えてあげたいという思いが込められています。

また、2回目の取り組みである2025年度は、完成までの過程にこだわり、普段は見えにくい「地域からの支え」を可視化することを目的の一つとしました。使用したお米は、本学学生と同じ島見の土地で育った「かんもりファーム」の有機栽培米コシヒカリです。お米には、古町神明宮の神主様よりご祈禱をいただきました。また、米の真空包装は、新潟市北区にある「社会福祉法人とよさか福祉会 豊栄福祉交流センター クローバー（以下クローバー）」に委託し、さらに、のし紙のパッケージはクローバーの利用者さん2名がこのために描き下ろしてくれたものです。のし紙は、在学生のボランティアとクローバーの利用者さんに貼りました。

本学学生は日々、地域の皆様に見守られ、助けられ、育てられています。4年次生が、新潟市北区、そして島見の誇りを胸に未来へ羽ばたいていけるよう、この地域の魅力を詰め込みました。



今年度も「つなでちゃんランチ」を提供し、販売金額の一部を支援しました！

昨年度に引き続き、在学生支援事業の一環として「つなでちゃんランチ」を提供いたしました。今年度は、3カ所の食堂よりクリスマス特別メニューをご考案いただき、2025年12月15日（月）～19日（金）の5日間、1日50食限定で販売いたしました。本来900円のところ、1/3の値段である300円で提供できるように同窓会で支援しました。つなでちゃんランチは毎日完売となり、在学生から大変好評でした！

今後も『学生の声を反映した支援活動』ができるよう努めてまいります。



同窓会って
知ってる？

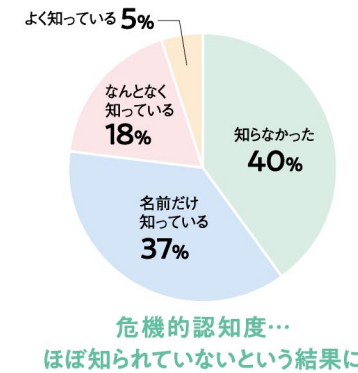
卒業しても、つながりは途切れない。後輩たちに求められる同窓会へ。学生の本音聞いてみました！

学生の声から見えた“つながり”のカタチ ●調査対象/学部1～3年生 3,644名 ●回答者/1,201名(回答率33%)

同窓会のイメージって？

同窓会は、卒業生がメインで活動しているイメージがありますね。そのため、在学生としてはどんな活動をしているのか理解が浅かったり、少し堅い、参加を戸惑う印象を感じます。

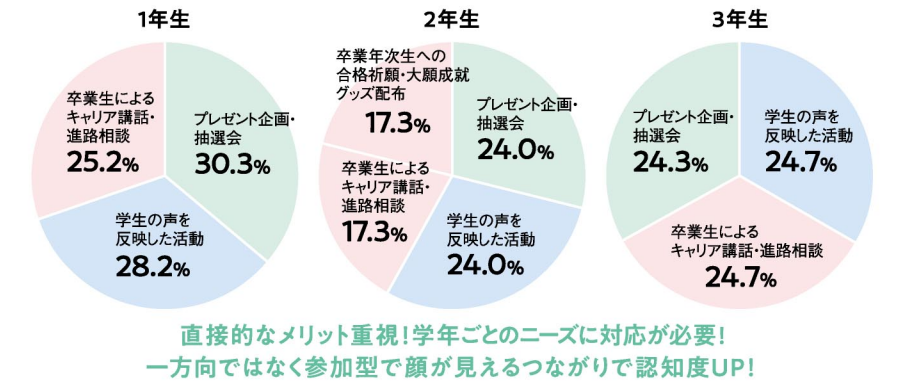
●認知度の深刻な状況



どんなイベントや企画なら参加してみたい？

定期的に図書館などで話せる機会があったり、共同してボランティアを企画するイベントがあれば参加してみたいですね。また、平日開催で学内で参加できるイベントだと、参加しやすいかと思えます。

●在学生が求める活動（ニーズ）



学生広報代表
高田 涼帆さん
社会福祉学科3年生



結論

在学生にとって同窓会が「卒業後に自然と入る組織」から「卒業後のコミュニティ」として卒業後も充実したつながりを持つ組織だと認識を変えていくことが重要！在学中から関わることで、同窓生と在学生が良いつながりを持つことができ、同窓会の活性化にもつながる！

具体的な支援や広報活動の方向性

学年段階に応じた異なるニーズに対応するため以下の活動を強化していきます。

認知度向上に向けて

動画コンテンツを活用した同窓生の活躍の紹介

学内には専用モニターを設置しています！モニターで放映している動画は、同窓会HPもしくは二次元コードからご覧いただけます。



同窓生紹介ムービー



石川 夏美さん 澤田 隆志さん

在学生が求める活動に対して

在学生との意見交換や顔が見える場所づくりの提供

学生生活サポート
在学生との交流や意見交換ができる場所づくりを提供します。

●つなでちゃんランチ(学食支援)



キャリア・就職サポート

連携総合ゼミ同窓生派遣事業、連携研修会への在学生参加促進、学科同窓会活動に対する支援 各種研修会やセミナー等

3年生は座談会に関心が高く「将来像が描ける」双方向型の活動にニーズがありました。連携総合ゼミへの同窓生派遣、連携研修会への在学生参加促進に加え、学科同窓会への支援を通じて交流の場や一緒に学べる場を増やしていきたいと考えています。



同窓生のみならず

在学生への支援には同窓生の皆さんの協力が必要です！在学生は、皆さんの経験や「今」の活躍を知ることが大きな力になります。同窓会では連携総合ゼミへの同窓生派遣や、学科同窓会への支援をおこない同窓生と在学生の交流イベントを開催しています。ご協力いただける方は、ぜひ同窓会支援室までお声がけください。在学生交流のアイデアや企画なども大歓迎です！

連絡先: 新潟医療福祉大学同窓会
新潟医療福祉大学事務局内 同窓会支援室
電話: 025-257-4455
メール: dosokai@nuhw.ac.jp

作業療法学科同窓会

2025年6月25日(水)に「第2回同窓生×学部生交流セミナー」を開催し、苑田会ニューロリハビリテーション病院で活躍する12期生・小林剛さん(2016年卒)を招いて特別講演をおこないました。作業療法士が「その人の価値観に寄り添い、日々の作業をその人らしく行えるよう支援する専門職」であることを、ユーモアを交えつつ、臨床経験や学生時代のエピソードを通して語っていただきました。後半の座談会では、8名の卒業生と学部生が小グループで交流し、進路や学びへの理解が深まる時間となりました。

さらに、10月31日(金)には初の「高学年向けセミナー」を開催し、長野県庁で高次脳機能障害支援コーディネーターとして勤務する6期生・中田佳佑さん(2010年卒)に登壇していただきました。「もし今の自分が学部生に戻ったら今伝えたいメッセージ」をテーマに、学生時代の疑問を臨床で探求し続けた経験や、現在のキャリアに至るまでの道のりを率直に語っていただき、学生にとって大きな刺激となりました。

2026年は新潟で開催される日本作業療法学会に合わせ、同窓会イベントも企画しています。学部生・同窓生双方の交流が今後さらに広がることを期待しています。



救急救命学科同窓会

本年度、救急救命学科において2つのイベントを開催しました。2025年7月19日(土)に開催した「1期生会」では、本科初めての同窓会で再会を果たし、互いの近況や職場での経験を共有しました。懐かしい仲間や教職員との交流は大きな励みとなり、笑顔の絶えない温かな時間が流れました。同窓生同士のつながりが深まり、今後の学科発展を支える力にもつながったと感じています。

2025年8月6日(水)に開催した、「交流会 夏の陣」では、卒業生が1~4年生の学習成果発表にコメンテーターとして参加し、研究内容や演習成果について実践的な助言をおこないました。世代を超えて学びが交わる貴重な機会となり、在学生にとって大きな刺激となりました。卒業生から語られる現場の経験は、後輩のみならず教職員にとっても大きな学びとなりました。

これらの催しは、卒業後も続く学びのコミュニティとして非常に意義があり、学科の歴史をつなぎ、学生・卒業生・教職員がともに歩む未来を形作る大切な1年となりました。2026年度は学科開設10周年を迎えます。今後も交流の輪を広げ、救急医療を担う仲間として更に強い結びつきを育んでいきたいと考えています。



診療放射線学科同窓会

2025年3月8日(土)、第3回診療放射線学科同窓会がアートホテル新潟駅前にて開催されました。診療放射線技師として同じ資格を持ちながらも、それぞれ異なる未来へ進んでいることを実感できる貴重な機会となりました。4年生からは、現場で活躍する先輩方の話が刺激になったとの感想が寄せられました。懇親会では、和やかで賑やかな時間を過ごすことができ、縦と横のつながりの大切さを改めて感じる場となりました。卒業後は連絡が途絶えてしまう仲間も多い一方で、本学科では同窓会を恒例行事として続けています。「またいつか会おうね」という卒業時の約束が、「同窓会で会おうね」という新たな再会の合言葉になることを願っています。



視機能科学科同窓会

2025年3月22日(土)に、臨床実習前実技試験と同窓会を開催しました。第1部では学生が実習に向けた実技試験を実施し、同窓生から学生にアドバイスをする姿や、学生から同窓生に業務についての質問をするなど交流がみられました。近田源輝さん(2019年卒)を中心に学生たちに対して臨床実習に臨む姿勢や準備、国家試験勉強について、学生時代の経験を踏まえながら講演していただきました。学生たちは熱心に聞いておりメモをとる姿もみられました。第2部では視機能科学科初の同窓会を開催し、懐かしい学友や教員との再会だけでなく、学年を超えたコミュニケーションがありました。今後も同窓会活動を計画し、視機能科学科を盛り上げたいと思います。



臨床技術学科同窓会

2025年9月13日(土)に第2回臨床技術学科同窓会が開催されました。同窓生・教員に加え、今回から在学生も参加し、世代を超えた交流の輪が大きく広がる機会となりました。

同窓生による講演では、臨床検査技師、臨床工学技士、医療機器メーカー勤務など、多彩な分野で活躍する同窓生が登場し、学生時代の経験や仕事のやりがいについて語られ、参加者が熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。同じ学科で学んだつながりが、卒業後も確かに生きていることを実感する場面でもありました。

在学生にとっては、自身の将来を具体的に思い描きかけとなり、「卒業後も参加したい」という前向きな声も寄せられています。

学科としてのつながりや絆を改めて感じる有意義な会となり、今後もこのような交流の機会を大切にしながら、さらなる広がりにつなげていきたいと思っています。



New! わたしは ひよっこ! 社会人1年目の奮闘と成長

目の健康を支える 視能訓練士として、 患者様と向き合い 日々奮闘!



私は、北海道大学病院の外来で視力検査や視野検査などの眼科一般検査をおこなっています。外来には、様々な症状を抱えた患者様がいらつしやいます。患者様とコミュニケーションをとりながら、必要な検査が適切にできるように日々努力しています。



真柄 邑菜さん
まがら ゆうな
視能科学科 2025年卒
●勤務先/北海道大学病院

すぐに臨床に活用できるようにしなければならなかったころは大変でした。ただ、画像検査をする際に、短時間で綺麗な写真が撮れた時にはすごく嬉しかったです。

入職してから半年が経過しましたが、まだまだ先輩方のようにスムーズな検査ができず、患者様の負担になってしまっているケースが多いです。練習を重ねて短時間で適切な検査ができるようになりたいと思います。また、勉強会などにも参加する機会が沢山あるので、これからも多くのことを学び、臨床現場で活かしていきたいと考えています。

がりがり の だがり



向澤 朱美さん
むかいざわ あみ
言語聴覚学科 2022年卒
●勤務先/社会福祉法人 光彩会 新座みらしるべ

vol. 5

これじゃなきや嫌だ!

私は2025年から、初めて放課後等デイサービスの集団療育に携わることになりました。始めの言葉は、自閉症スペクトラム症(以下ASD)の小中学生のお子さんからよく耳にする特徴的な一言です。さて、冒頭のASDのお子さんの言葉は「わがまま」でしょうか?

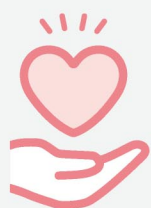
俗に言う「わがまま」とは、状況を理解した上で自分の思い通りにしたいという欲求を満たすために、意図的に行動することを指します。

一方ASDは特性である、感情コントロールや社会的ルールの理解の難しさ、強いこだわりなどが起因し、急な予定変更や慣れない環境に強い不安を感じ、自分のおかれた状況が把握できず困っていることに対しての表現方法の場が多いためです。

したがって冒頭の言葉は、単なる「わがまま」ではなく、当事者が困っている

状態と考えられます。「見「わがまま」にみえるこの行動は、ASDにとっては一つの個性であり、私達支援者がその特性を理解し、配慮や援助をしていく必要性があります。

具体的な支援では、当事者が不安を感じないよう環境調整や視覚的サポート、小さな成功体験の積み重ねによる自己肯定感の向上を図り、困り事を解決していくことが重要とされています。当事者の言葉や行動をそのまま決めつけるのではなく、本人の視点に立ち、経緯や要因を探り適切な支援をすること、これが支援者の努めと私は考えます。



専門職から○○へ



大学病院の臨床検査技師から
大学メディカルバンクの研究者へ



篠田 元気さん
しの だげんき
臨床技術学科 2016年卒
●東北大学東北メディカル・メガバンク機構

卒業後から現在のお仕事に至るまでの経歴を教えてください。

大学を卒業してから4年間、大学病院の検査部生理検査センターで臨床検査技師として勤務していました。その後、東北大学東北メディカル・メガバンク機構で研究者として様々な研究に携わってきました。現在は、分子疫学分野という研究室に所属し、世界初の研究デザインである「三世代コホート調査」の遂行に従事しています。

転職を考えた理由、決断した理由は何ですか?

大学病院での勤務時代、様々な患者様と接してきました。特に、認知症や精神疾患、てんかんなどの脳疾患を持つ患者様と接する機会が多くなりました。臨床現場で感じるのは、疾患に罹つてからではなく、「より早い段階で予防する仕組みを作れないか」という問題意識でした。この思いから、個々の体質(遺伝的背景や環境要因)に基づき疾患を未然に防ぐ「予防医学」「個別化医療」に関心をもち、東北大学東北メディカル・メガバンク機構への転職を決意しました。

転職を考えてから決めるまでに心配だったことや悩んだことはありましたか?

研究者には常に最先端を追求する探究心や新しいことを発見する発想力が求められます。また、専門的な知識や高度なスキル、多様な分野の人々と協働するためのコミュニケーション能力も必要です。転職を考えた時、そうした要素すべてに対応でき

これからは、進路として研究者を目指す学生は多くなかったと記憶しています。研究者も大変なことが多いですが、未来の医療に貢献できるという大きな魅力があります。ぜひ、広い視野をもって自身の進路を真剣に考えていただければ幸いです。また、転職を考える際には「自分がどのような役に立ちたいのか」という軸を持つことが大切だと思います。自分の可能性を信じて、前向きに歩を踏み出してほしいと思います。

私が大学生の頃は、進路として研究者を目指す学生は多くなかったと記憶しています。研究者も大変なことが多いですが、未来の医療に貢献できるという大きな魅力があります。ぜひ、広い視野をもって自身の進路を真剣に考えていただければ幸いです。また、転職を考える際には「自分がどのような役に立ちたいのか」という軸を持つことが大切だと思います。自分の可能性を信じて、前向きに歩を踏み出してほしいと思います。

臨床では目の前の患者様の検査結果を正確に出すことが最優先でしたが、研究では「なぜ疾患が起こるのか」「どうすれば予防や治療ができるのか」を長期的な視点で追求します。自らの仮説を立て、データを解析し、世界に新しい知見を発信できるのは研究者ならではのやりがいです。また、研究活動の中で世界中の様々な研究に触れることは、自分の視野を広げる大きな刺激になります。さらに、臨床で得た現場感覚を研究に活かせることも大きな強みとなり、転職して本当に良かったと感じています。

私が大学生の頃は、進路として研究者を目指す学生は多くなかったと記憶しています。研究者も大変なことが多いですが、未来の医療に貢献できるという大きな魅力があります。ぜひ、広い視野をもって自身の進路を真剣に考えていただければ幸いです。また、転職を考える際には「自分がどのような役に立ちたいのか」という軸を持つことが大切だと思います。自分の可能性を信じて、前向きに歩を踏み出してほしいと思います。



教員おすすめの本紹介

なぜ人は自分を責めてしまうのか

信田さよ子著 ちくま新書 2025年



臨床の現場では、しばしば医療的な手段で解決困難なトラブルにぶつかる。そこには家族をめぐる問題が隠れている。極めて異常な事態が進行していても、あまりにも日常化していると本人はおろか医療者にも見逃される。長年、アルコール依存症患者の家族を支援し、虐待の加害者のカウンセリングにも携わる信田さよ子先生は、当たり前とされてきたことを次々にひっくり返す。患者やその周辺が「異常」なのではなく、むしろ医療者や支援者の「常識」が歪んでいるのではないかと、ケアとか愛とか「よりそう」とか、優しい言葉はともすると、支配し飼いの殺す方向に陥落する。私たちは諸賢に常に学び、どのように為すべきかを問い続けなければならない。

紹介して下さった先生は……

津田 篤太郎 先生



新潟医療福祉大学 鍼灸健康学科 教授
2011年 北里大学大学院 博士課程修了 博士(医学)